

第23回メソ気象研究会開催のお知らせ

日 時：2004年5月15日（土曜日）

気象学会前日13：30～17：30

場 所：気象庁講堂

コンピーナー：坪木和久

（名古屋大学地球水循環研究センター）

テーマ：「台風とそれに伴うメソシステム」

趣 旨：台風は全体の水平スケールが1000 km を越える大規模な擾乱であるが、そのなかに形成されるメソシステムは数10 km オーダーの現象である。これらの水平スケールの異なる構造が相互に深く関係し合うことで、台風全体が発達し、一方で降水の集中などの局所的なシステムが形成される。この部分と全体の強いリンクが台風をユニークな現象としていられると考えられる。この特徴に加え海上で発生・発達することが観測を困難なものにし、この特徴、すなわち大規模と雲スケールの共存共生がその数値シミュレーションを困難にしてきた。近年、衛星やレーダーだけでなく、様々な新しい測器によってさらに踏み込んだ観測が行なわれつつある。また、モデリングにおいても大規模な並列計算による大規模数値実験により、台風の部分と全体を同時に計算することが可能になりつつある。これらの近年の発展が台風について多くの新しい知見をもたらしつつあるが、あらためて台風の研究において何がこれまで明らかにされてきて、今後、観測においてもモデリングにおいても何を明らかにしていかなければならないのかを明確にしておくべきときにあるように思われる。そこでこれを目標として今回のメソ気象研究会では、台風とその部分であるメソシステムについての研究をテーマとして選んだ。

プログラム：

趣旨説明 坪木和久

（名古屋大学地球水循環研究センター）

1. 「気象庁 WINDAS を用いた台風の立体構造に関する研究」
手柴充博（京都大学宙空電波科学研究センター）
2. 「台風の2重眼について」
林 泰一（京都大学防災研究所）
3. 「台風通過時に観測されるメソ β スケール “Pressure dip” の研究」
筆保弘徳（防災科学技術研究所）
4. 「関東地方における台風0221号とメソ前線の変化」
北島尚子（気象研究所台風研究部）
5. 「台風のスパイラルバンドの降水強化過程」
野村光春・坪木和久
（名古屋大学地球水循環研究センター）
6. 「台風の非軸対称構造に関する数値実験」
余田成男（京都大学大学院理学研究科）
7. 「雲解像非静力学2way 多重移動格子モデルを用いた台風の予報実験」
益子 涉（気象研究所台風研究部）
8. 「THORPEX 計画における台風の観測と予報」
中澤哲夫（気象研究所台風研究部）

総合討論

（各講演は質疑・討論を含めて25分）